

震災での医療活動報告

AMDAの津曲さん講演

矢掛

いかさ女性セミナー(岡村咲津紀運営委員長)の研修会が十六日、小田郡矢掛町の町農村環境改善センターであった。講師のアジア医師連絡協議会(AMDA)の津曲兼司事務局次長は、会員や町民ら約百人を前に「今、地球愛く岡山発、宇宙船地球号」と題して講演。阪神大震災を例に「極限状態の中でも失われぬ、人間の優しさに触れられた」と話した。

AMDAは一九八四年に設立。岡山に本部を置き、医師やボランティアら国内外九百人の会員が、アジア、アフリカで難民救済などの

活動をしている。津曲さんは阪神大震災でも、避難所で医療活動に当たった。講演では、スライドを交えて震災での活動を報告。「一瞬一秒でも早くこの思いで現地入りしたが、地獄のような光景だった。避難所では、自ら大げがした人

に「この人たちから先に見てやってください」と言われ、胸がいっぱいになった」と話した。また、ボランティア活動を通し「最高の心の報酬を頂いている」と強調。自発的なボランティア活動を呼び掛けた。

同セミナーはこの日、会員が衣類や日用品を持ち寄ってリサイクル市を開き、売上金約六万円をAMDAに寄付した。



ボランティア活動の勧めを話す津曲AMDA事務局次長